

子どもの心を育てるための教師の在り方と関わり方



長澤 勇哉

モラロジー道徳教育財団 学校教育センター 課員
元千葉県九十九里町立豊海小学校 教諭 長澤 勇哉

一、子どもの可能性を引き出す教育者

私は昨年度末で教員を辞めました。主な理由は二つです。

一つ目は子どもたち一人ひとりの可能性を引き出す教育者になるためには、自分の器を大きくする必要があると考えたからです。そのために敢えて学校現場を離れるという選択をしました。本財団は、全国にネットワークがあり、全国各地の教育者（学校教育、社会教育、地域教育等）の実践を見聞きする機会に富んでいますし、全国の方々に情報を発信することもできます。

「関係で悩んでいる」といった子どもたちが多くいます。それらの問題の解決には何が必要なのでしょうか？。県内各地の教育委員会や教育事務所、学校を大久保先生と訪問しながら、教育環境の改善につながる活動を一步ずつ進めていきたいと考えています。

ながら、自分の器を広げ、子どもたちの可能性を引き出すことができる教育者になりました。

長澤さんは『けいいく一六年号』から継続的にご執筆いたされています。長澤さんは子どもたちの力を引き出す教育実践をしているので、まさに「けいいく」のコンセプトにふさわしいと感じています。

昨年度末に公立小学校教員を辞して今年度から本財団の職員となりましたが、そのあたりのことも含めてお話をいただきます。

二、教師の在り方

教育環境の改善において、今すぐに取り組めることがあります。それは、教師自身が自分を見つめ直し、子どもたちへの関わり方を変えていくことです。「教育は人なり」という言葉に表されるように、子どもたちは教師の言葉や行動の裏にある教師の本質・生

資料1

【しくじりから学んだ「教師の在り方」】

1. 精神をつくり、次に形式をつくる
～目的と手段を混合しない
2. 家族や仲間を大切にする
～身近な人から大切に
身近な人は自分を映す鏡である
3. 他者に求めない
～自分と未来は変えられる
すべての現象は自己選択の結果
4. 人の喜びを心から喜ぶ
～他者への慈愛が自愛につながる
5. 常に明るく素直に生きる
～暗さや濁り、臆病さが決断力を鈍らせる
6. 自分の個性を生かし、人のために生きる
～学びは真の幸福のためにある
7. 気付いた瞬間に行動する
～今を取り逃がす人に成功はない
8. 根本、本質を大事にする感性を磨く
～固定観念やマニュアルにとらわれない
9. しくじりから学び、次の一手を打つ
～全ての事象、過去の自分が師である
10. 苦難を楽しむ
～ピンチの時こそ、にっこり笑って逆境も楽しむ

き様を感じ取ります。私は教師の器の分だけ子どもたちは成長できると考えていますし、教師が変わった分だけ子どもたちも変わつていけると信じています。

大切なのは、教師一人ひとりがよりよい生き方を求めて一生懸命に生きることだと思

三、子どもたちとの関わり方

います。読者の皆様も「ご自身の在り方」をまとめてみてはいかがでしょうか。

私は、子どもたちとの関りの中で沢山のしくじりをしてきました。例えば、教育への熱意が裏目に出てしまい、過度な課題を与え、子どもを追い込んでしまったり、教師の理想を押し付けてしまい、子どもが本音で発言できる環境を奪つたり…。

このしくじりから学んだことを「教師の在り方」としてまとめてみました（資料1）。これは、教員生活の中で沢山のしくじりをしながら先生方や保護者の皆様、そして、子どもたちから教えてもらつた「よりよい生き方」を整理しましたのです。

さらに、自分を戒めるために、「しくじりから学んだ子どもとの関わり方チェックシート（資料2）」を作成しまし

資料2

【しくじりから学んだ「子どもとの関わり方」チェックシート】

1. 教師の言動が子どもたちにとって過剰なプレッシャーになっていないか
→まずは子どもの発言を聞き、受け止めたり寄り添つたりする。教師の理想ばかりを押し付けない。
2. 子どもの評価は適切か、表面上だけで判断していないか
→外見や様子だけでは分からずその子のSOSや深層の気持ちを感じる努力をする。
3. 他の子と比較をしていないか
→その子の良さを認め、褒める。「桜梅桃李」の言葉の通り、特性も成長のスピードも一人ひとり異なる。
4. 短期的な成長を期待するあまり、無理をさせたり目標や手立てが教師本位になつたりしていないか
→子どもの5年後10年後の幸せを心から願い、教師の自己満足は捨てる。
5. 過労や過剰な仕事量から、心に余裕がなくなってしまっていないか
→時には早く帰つて体を休めるのも子どもたちのため。リフレッシュする趣味や仲間をつくる。子どもたちにとっての最高の教育環境は「教師の笑顔」。

たのでご自身を振り返る際に、参考にしていただけたらと思います。
子どもたちは全員が無限の可能性を持っています。その可能性を引き出せるかどうかは、大人の関わり方次第です。むすびに、以前大久保先生と「子どもたちとの関わり方」について考えていました。

これからも教育に携わるすべての方々と共に子どもの可能性を引き出す「けいいいく」について考えてきました。子どもたちのために、魅力的な自分づくりをし、自分自身も教師をやつてよかつたと思える人生にしましょう！



意欲溢れる青年教師と対談
子どもたちとの関わりで大切なことは？
—子どもの道徳的実践意欲を高める—

動画視聴はこちから

